

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	・学習目標の明確化を図る。 ・I C T機器の活用を進める。 ・主体的・協働的に学ぶ学習を図る。 ・個に応じた指導を工夫する。	中間 評価		最終 評価	
環境作り		・安心して学習へ取り組める良好な学級集団を育成する。 ・教室環境を整え、学習や行動の決まりを生徒に分かるように示す。				

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）➡	最終評価（２月）
国語	【調】・新宿区学力定着度調査の結果を見ると、区も全国も 1.6～2.6%上回っている。観点別にみると「知識・技能」は区を 1％、全国を 2.1％、「試行・判断・表現」は区を 2.4％、全国を 3.8％上回っており、学力はついてきたものと思われる。ただ、「主体的学習態度」の正答率が全国を 4％下回っているのが懸念材料である。 【調】・領域別にみると、「読むこと」が区を 3％、全国を 10.2%上回っている一方「書くこと」が区を 1.2%、全国を 9.7%も下回っている。 【学】・生徒は日常的にノートに書くことを面倒がる傾向がある。	・「主体的学習態度」が低いのが大きな課題であり、今後の学習に大きく影響することが予想される。 ・「書くこと」の力が不足すると、相手に伝わらないばかりでなく、自分の思考を深めることが十分にできないことが予想される。「書くこと」の力を育成することは、喫緊の課題である。	・導入の工夫をし、生徒の意欲を喚起してから授業を始めるようにする。 ・俳句を作ったら、句会を開催したり、古典学習に百人一首を取り入れたりして楽しく学習できる雰囲気を作る。 ・新出語句を学習したら、意味の確認だけでなく、短文作りをしたり、意見交換のあとに互いにコメントを書いて交換したりと、短い文章を書くことに慣れさせ、ある程度まとまった文章 600 字～800 字が書ける力をつけていく。 ・文法や漢字については、ドリルパークを活用し、知識の定着に努める。		
社会	【調】・新宿区学力定着度調査を見ると、新 2 年生の正答率は全国平均を 5.3％、区平均を 5.8％上回っている。 どの観点も全国・区平均ともに上回っているが、領域別では、地理「日本の姿」の正答率が全国・区平均ともに下回っている。 ・新 3 年生社会科の平均正答率も全国、区平均ともに上回っている。観点別では主体的に学習に取り組む態度が 3 観点で最も高くなっており、他 2 観点も全国平均を上回っている。領域別では歴史「江戸時代」の正答率が全国平均より低いため、改善が必要である。全体的に基礎学力の定着が課題である。 【学】・授業は意欲をもって参加する生徒が多い。提出物の状況も概ね良好である。	・社会的な事象に対する関心や意欲は高い生徒が多い。 ・家庭学習の定着ができておらず、授業で学習をした内容が定着していない生徒も一定数いる。 ・資料活用については、複数の資料を読み取ることが苦手になっているところが見られる。 ・社会的な判断力や表現力を付けていく上で必要な、主体的に考える力が弱いことが課題である。	・ICT 機器や各資料、実物など視覚に訴える教材を有効に活用し、関心・意欲をさらに高める。 ・資料活用の技能は、授業の中で地図や統計などの複数の資料を扱い、読み取る力を高める。その際タブレット端末を効果的に活用する。 ・授業内容を理解しやすいように動画や図、絵等を活用し、机間指導の充実を図る。 ・学習内容定着のために、授業開始時に前時の復習を取り入れ、単元ごとに小テストを行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・社会的事象について、主体的な学習を通じ、自分の意見や他者の考えを積極的に取り入れ、調べた内容を図表や文章等にまとめることで、思考、判断力、表現力を高めていく。		
数学	【調】・新 3 年生の正答率は全国平均を 6.0％、区平均を 0.8％上回っている。3 観点すべてにおいて、全国・区平均ともに上回っているが、領域別では、「数と式」の正答率が区平均を下回った。D 層が区全体よりも 2.4％上回っている。 【調】・新 2 年生の正答率は全国平均を 14.1％、区平均を 9.3％上回っている。3 観点および領域別のすべてにおいて、全国・区平均ともに上回っている。 【学】・どの習熟度別のクラスにおいても、意欲的に授業に参加する様子が見られる。 ・考え方を書き表したり、説明したりするのが苦手である。	・新 3 年生においては、D 層を中心に、基礎的な知識、計算力に課題がある生徒が多い。また、「図形」に比べて、「数と式」、「関数」の正答率が低いことから、文字の使い方について課題があると考える。 ・新 2 年生においては、全体的に理解が高い様子が見受けられるが、授業の様子から、考え方を書き表したり、説明したりするのが苦手である。 ・全体的に、学習したことを身の回りの事柄に結び付けて考えることが苦手である。	・I C T機器を活用し、基礎的な計算力を高める演習をおこなう。 ・文字で表すことの良さや必要性を感じさせる教材を開発する。。 ・習熟度別授業をいかして、生徒一人一人の理解度に応じた指導の充実を図るとともに、小テストや演習を細やかに実施して、適したクラスを選択できるようにする。 ・話し合い活動、発表活動を授業に積極的に取り入れ、表現力を伸ばしていく。 ・身の回りのことに結び付けた教材を開発する。		
理科	【調】新宿区学力定着度調査から新 2 理科の正答率は 62.7%で新宿区全国いずれの平均を 4～6%上回った。また、新中 3 理科の正答率は 66.0%で新宿区全国いずれの平均を 6%上回っている。 【調】観点別に見ると、2 年 3 年ともに全国・新宿区ともに上回っているものが「主体的に学習に取り組む態度」が他の観点と比較して正答率が低い結果を示している。 【調】新 2 年の「エネルギー」の領域と新 3 年の「地球」の領域が他の分野と比較して低い結果になっている。 【学】授業や実験に対して意欲をもって参加する生徒が多いが、知識の定着や家庭学習の習慣が身についていない生徒もいる。	・実験における観察の指導やまとめの仕方が課題である。 ・実験の目的や方法について明確化し目的を持ち課題に取り組もうとする姿勢の育成が課題である。 ・エネルギー（粒子）概念の形成が課題である。 ・気象や天体の現象を科学的に分析し究明していこうとする姿勢の育成が重要である。 ・家庭学習による学習内容の定着が不十分であることが課題である。 ・中位層～下位層は自ら課題を見付け解決しようとする姿勢が不足していることが課題である。	・見通しをもって観察実験を行い、結果をレポート等にまとめることを繰り返し指導していくことが求められる。 ・ICT機器を積極的に用いるとともに、授業テーマの提示、授業内で行った内容に知識のまとめを行う。 ・授業者が適宜課題等を指示し家庭学習で復習を実施しやすい環境の整備を実施していく。 ・中位層～下位層の底上げのために実験の結果について班で話し合い課題を解決しようとする姿勢を育成していく。 ・気象や天体の観察や実験が難しい単元については、タブレット端末を効果的に活用する教材開発を進める。		
英語	【調】新宿区学力定着度調査を見ると、新 2、3 年生ともに、全ての観点において全国平均を 10％以上上回っている。 【調】とりわけ「書くこと」の能力は全国平均より新 2 年が 12％、新 3 年が 17.5％と大きく上回っている。 【学】授業には意欲をもって取り組んでいる生徒が多く、言語活動にも積極的な態度が見られる。一方で「話すこと」「書くこと」による表現活動には苦手意識をもつ生徒も見られる。課題提出に関しては、中位層・下位層を中心に取り組みが不十分な生徒がいる。	・「聞く」というインプットの能力は高いが、その聞いたものをアウトプットする機会に恵まれていない。そのためアウトプットの機会を増やし、授業における「話す」言語活動の機会を取り入れ、繰り返すことによって「表現の能力」の定着を図る必要がある。 ・「書く」ことにおいても自分の体験や意見を書く指導にもに重点をおき、まとまりのある文を書く機会を多く増やす必要がある。	・既習事項の語彙や表現を用いて、英文を書くことおよび話すことを継続的に指導する。 ・教科書の各パートにある「Write」を活用することで、時には個人添削するなど短い英文を日ごろから取り混ぜ単元の最後の Unit ActivityやLet’s write、Stage Activity でまとまりのある英文や場面に応じた英文に取り組ませる。 ・ペアワーク、グループワークを多く取り入れ、即興でも英語が出るよう、普段から自らの意見を表現し伝える活動を継続的に行う。 ・ICT 機器の活用は今まで以上に常態化し、タブレット端末を使った個別化を図る。		